

新現代の国語

令和4年度～用 三省堂国語教科書

04教・内容解説資料

A5判・240ページ

- ・10単元
- ・コラム
- ・学びを深める資料編

■ご案内	1
教科書の目次	10
教科書の紙面	33
指導書・教材・デジタル	33

三省堂

*この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

現国 705

三省堂 高校教科書ウェブサイトのご案内



令和4年度版 新刊教科書の特設ページを展開中!

各教科書の特徴の紹介、編集委員による解説動画、各種資料を掲載。紙面やデータサンプル、QRコードコンテンツ体験版なども公開中。追加の資料なども順次更新していきます!

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/hspr/>



『新現代の国語』編集委員

- 岩崎昇一 元東京都立国際高等学校
- 三浦和尚 愛媛大学
- 飯間浩明 早稲田大学
- 小川一美 東京都立小石川中等教育学校
- 齋藤祐 中央大学杉並高等学校
- 佐野正俊 拓殖大学
- 高木展郎 横浜国立大学名誉教授
- 高山実佐 國學院大学
- 早川香世 東京都立国際高等学校
- 榎井英人 大阪府立北野高等学校
- 宮本浩治 岡山大学

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 TEL 03-3230-9411(編集)・9556(営業)
 ●大阪支社 〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-5-3 TEL 06-6341-2177
 ●九州支社 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金1-3-1 TEL 092-531-1531

教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

国語教科書公式Twitter [@sanseido_kokugo](https://twitter.com/sanseido_kokugo)

公式Facebookも展開中!

「現代の国語」とは…(学習指導要領より)

●標準単位数 2単位

●目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

現行「国語総合」をベースとして、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成に主眼を置いた科目です。

●内容(抄)

〔知識および技能〕

●言葉の特徴や使い方

●話や文章に含まれている情報の扱い方

〔思考力、判断力、表現力等〕

●各領域において身につける事項

●その事項を指導する際の言語活動例

●内容の取扱い(抄)

●(思考力、判断力、表現力等)における授業時数については、次の時間を配当し、計画的に指導する。

話す・聞く 二十～三十時間程度
書く 三十～四十時間程度
読む 十～二十時間程度

●「読むこと」教材は、現代の社会生活に必要なとされる論理的な文章及び実用的な文章とする。

●「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれに掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定する。

『新現代の国語』目次の紹介

●生徒の学びに向かう力を引き出す、明解かつ多様な教材。

●計十単元で、「現代の国語」として求められる

「話す・聞く」「書く」「読む」「各領域の学習内容を網羅。

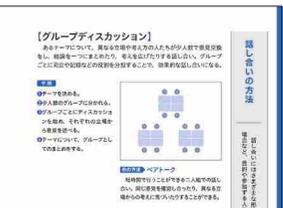
- 入門 一単元
- 話す・聞く 三単元
- 書く 三単元
- 読む 二単元
- まとめ 一単元

●それぞれの単元において、「どのような力をつけるか」「そのため何をやるか」を明確化。そのうえで、各々の学習内容に適した、明解かつ多様な教材を配置しています。

●テーマに沿った教材を複数配置しています。そのままでも、選んでも、カリキュラムを自由に組み立てられます。

●各題材に関連したコラム、表現テーマ例集、読書案内で、主体的な学び、および自学自習へとつながっていきます。

(P.208)



(P.227)



(P.55)



(P.146)



●資料編には、「話し合いの方法」や「思考の方法」、実用的な文章の特徴、言語活動のための用語集など、適宜参照できる情報が豊富に掲載されています。

この教科書で身につく言葉の力（観点別言語能力一覧）

入門

世界を
言葉と声で表す

言葉と声で表そう

14

1 わかり合うために

〈読む〉

情報を読み解く

伝え合い（コミュニケーション）に大事なことを考える

―コラム―情報を読む―統計資料の読み方・扱い方―

18

届く言葉、届かない言葉

―コラム―「要約」と「要旨」

驚田清一

20

情報を要約する

わかりあえないことから
聞く力

―表現テーマ例集 コミュニケーション

阿川佐和子

32

情報を関連づけて
まとめる

―表現テーマ例集 コミュニケーション

平田オリザ

28

領域別の単元構成で、それぞれ「内容の
まとめり」をもった学習を行うことができます。

2 確かな情報を
伝えるために

〈話す・聞く〉

情報を吟味する

情報はつくられる

―コラム―メディアとのつきあい方

40

情報と適切に
つきあう

ひとまず、信じない

―コラム―引用について

押井守

43

情報を適切に
編集する

情報を編集し、的確に発表する―パブリックスピーチ

―表現テーマ例集 メディア・リテラシー

吉岡洋

50

学びを深める
情報と身体

吉岡洋

55

3 情報を生かすために

〈書く〉

情報を集めて選ぶ

人が死なない防災

―コラム―わかりやすく伝える

片田敏孝

60

情報を整理する

減災学をつくる

―コラム―情報の編集

矢守克也

68

情報を作りかえる

評価した情報をまとめる―報告書

―コラム―やさしい日本語

外山滋比古

74

防災・減災について、
ハザードマップや
「やさしい日本語」など、
国語および情報の観点から
学びます。

―表現テーマ例集 共生・環境

外山滋比古

76

学びを深める
情報の「メタ」化

外山滋比古

79

※この資料で主に紹介している単元です。

4 よりよい読み手に
なるために

〈読む〉

- 情報を分析・評価する
- 説明の方法を理解する
- さまざまな視点から情報を捉える

読むことのレッスン

—コラム—分けることの長所と短所

水の東西

—コラム—問題・結論・理由

コインは円形か

—コラム—思う文章と考える文章

●表現テーマ例集 文化

飯間浩明

山崎正和

佐藤信夫

飯間浩明

86 90 91 96 97 103 104

5 場に応じて
伝えるために

〈話す・聞く〉

- 根拠を明確にして考えを伝える
- 表現の仕方に注意する
- 相手を意識して自分の考えを伝える

中身当てクイズ

—コラム—情報とコミュニケーション

読み比べる—海ガメの無念

—コラム—論理と感情

構成や展開を意識して発表する—プレゼンテーション

●表現テーマ例集 科学技術

佐藤雅彦

岩井克人

108 110 111 114 115 120 122

6 説得力を
高めるために

〈書く〉

- 引用の目的やはたらきを理解する
- 説明の仕方を考える
- 情報を活用する

折々のことば

—コラム—言葉を拾う

宝探してみたいに

本の世界へ入っていきます

—コラム—読書はつながりの中で

情報を整理して推薦する—ブックトーク原稿

—コラム—コミュニケーションとしての読書

●表現テーマ例集 読書

鷲田清一

芦田愛菜

川上未映子

128 129 130 137 138 143 144 146

読書家である女優・芦田愛菜さんの文章など、「読書」を中心的なテーマとして取り上げた単元です。

7 考えを共有
していくために

〈話す・聞く〉

- ある事実をもとに未知の事柄を推し量る
- 情報を関係づけてまとめる
- 伝えることの意味や方法を理解する

檻の中の「街」

—コラム—対話と思考を起動させる

小さな哲学者

—コラム—意思決定・合意形成のための会議

多様な意見に触れる—パネルディスカッション

●表現テーマ例集 国際理解

安田菜津紀

中村安希

152 158 159 166 167 172

「資料編」では、「話し合いの方法」や「思考の方法」、実用的な文章の特徴など、適宜参照できる情報が掲載されています。

資料編

- ◎ 話し合いの方法 208
- ◎ 文章の方法 210
- ◎ 情報の収集と発信 214
- ◎ 「思考の方法」一覧 216
- ◎ 論理的な文章の特徴 220
- ◆ 言語活動のための用語集 234
- ◆ 高等学校で学習する音訓のある常用漢字一覧 236
- ◎ 実用的な文章の特徴 222
 - ◆ 報道の文章 222
 - ◆ 手紙 224
 - ◆ 記録 226
 - ◆ 実務的な文章 228
 - ◆ 宣伝・広告の文章 232

8 よりよい書き手になるために

〈書く〉

各単元につづつ「表現テーマ例集」を設け、単元テーマに関連した発表や話し合いの具体を例示しています。

事例と主張の関係を整理する

自分なりの考えをまとめる

意図が十分に伝わる書き方を探る

世界を言葉で広げる

ありのままの世界は見えないものごとば

—コラム—レトリック

情報を活用して説得的に書く—小論文

—コラム—推敲

書いた文章を批評し合う—推敲

● 表現テーマ例集 生き方

学びを深める 真実はひとつじゃない

言葉で世界を豊かに

田中真知
鈴木孝夫

森達也

176

184

190

192

194

195

196

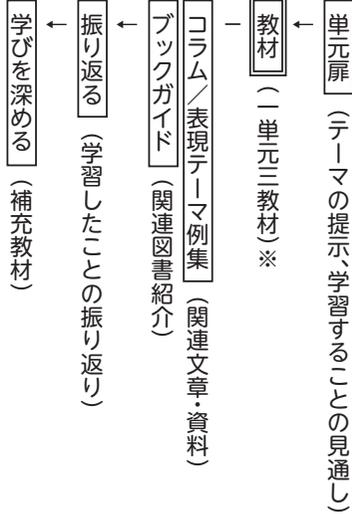
198

204

『新現代の国語』紙面の紹介

●「何のために」「何をやるか」が明確、
着実に学習を進められる単元構成

◎各単元、同じ流れで進められる構成になっています。



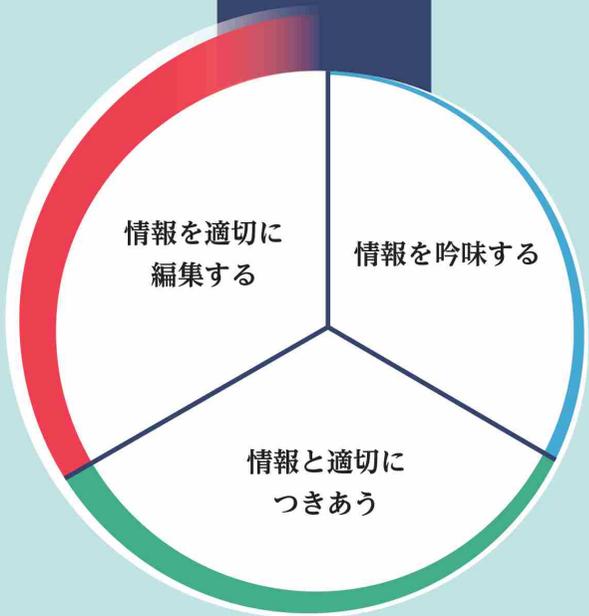
※各教材の冒頭で、その教材で行う学習活動を明示。
また、各教材の文章の後には、内容理解のための整理・まとめを行う「情報を整理するために」を配置しています。

◎「学習活動のためのヒント」を適宜配置し、授業においてスムーズに言語活動を行えます。

2 確かな情報を伝えるために

〈話す・聞く〉

単元扉では、各教材で取り組むこと・身につける力を、三つの教材を段階的に学んでいく流れが分かるような形で明示しています。



情報はつくられる

教科書紙面ダイジェスト

ひとまず、信じない 押井守

情報を編集し、的確に発表する
—パブリックスピーチ

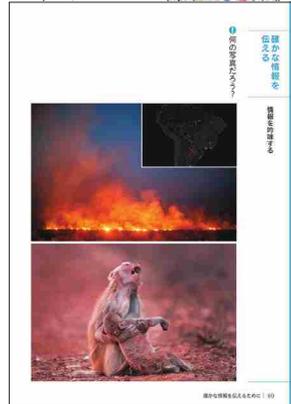
学びを深める
情報と身体

コラム
メディアとのつきあい方
引用について

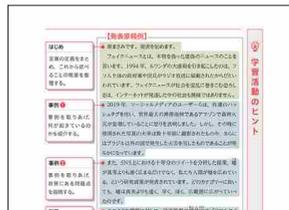
(P.75)



(P.40)



(P.52)



(P.118)



読解を広げるグラフ・図版、写真

◎グラフや図版、資料を交えた教材で、読解の幅を広げます。

丁寧な手順解説、豊富な事例

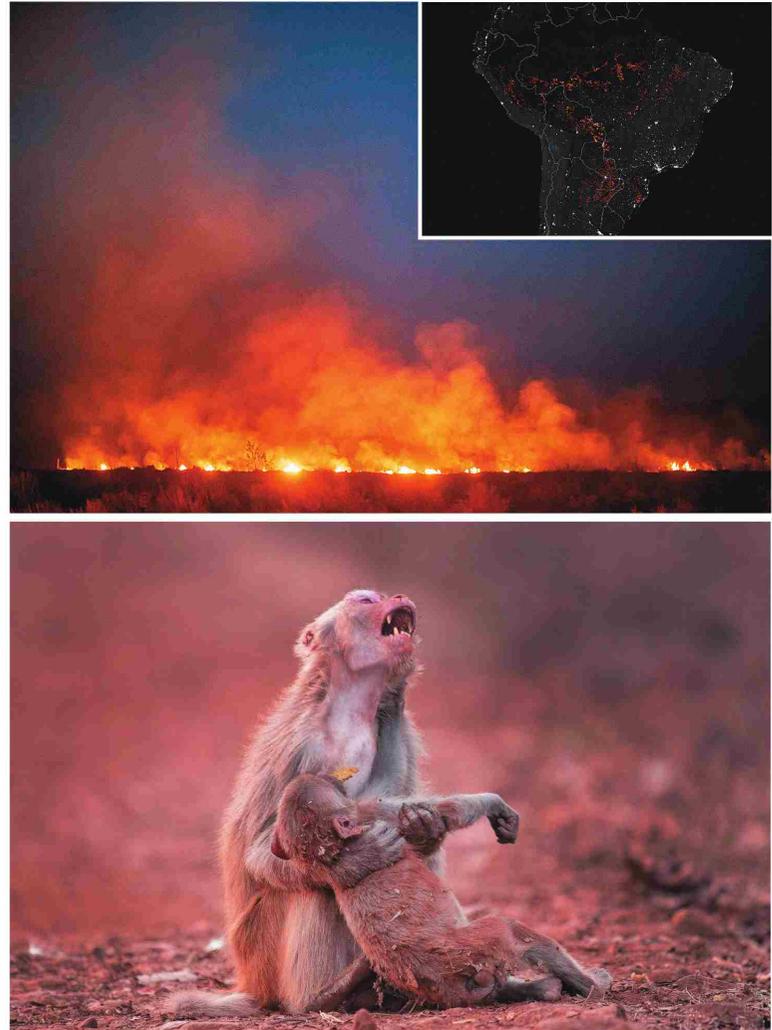
◎活動教材では、丁寧なイラストで手順を示しているほか、事例を豊富に掲載し、充実した活動をサポートします。

確かな情報を伝える

情報を吟味する

！ 何の写真だろう？

「情報」というものの伝わり方・受け取り方を考えます。



見開きで完結する教材です。印象的な写真から、

学習活動

1 「情報はつくられる」とはどういうことか、説明しよう。

情報はつくられる

二〇一九年、南米アマゾンの熱帯雨林で、大規模な火災が起きた。右ページの写真のうち上の二枚は、その様子を撮影した衛星写真と報道写真である。

その際、広がる火災を写したとされる写真がインターネット上のソーシャルメディア（個人の情報発信メディア）で拡散した。しかし、写真の中には数十年前に撮影されたものや、さらにはブラジル以外の国で発生した火災を写したものもあることが明らかになった。

拡散が特に多かった写真の一つに、右ページ下の、息絶えたように見える赤ちゃんを抱くサルの写真がある。だが、この写真は二〇一七年にインドで撮影されたもの

だった。カメラマンは取材に対し、写真の赤ちゃんは倒れかかっていただけだったと説明している。

また、森林の広範囲が火に包まれ大量の煙が立ち上るさまが写った画像で、ある俳優が自身のソーシャルメディアに掲載したところ、百万件以上の「いいね」（肯定的な反応）を集めたものがあった。しかし、この画像は、一九八九年に写真通信社のカメラマンが撮影したもので、二〇〇七年にイギリスの新聞社が掲載したアマゾン森林伐採に関する記事でも使用されていた。

メディアのつきあい方

新聞によって私たちは、遠く離れた場所で起きたできごとを翌日には知ることができるようになった。ラジオによってそれは同時性を獲得した。テレビは、その場のリアルな映像を届けることも可能にした。さらに、インターネットの誕生と普及がもたらしているのは、誰もが発信者になれるという、これまでにない環境である。

ソーシャル・ネットワーキング・サービス (social networking service ≡ SNS) は、インターネット上で個人が情報を交換するしくみの一つだ。何気なく「つぶやいた」言葉が思わぬ反応を呼び、反応の連鎖を引き起こし、情報がたちまちに拡散する場合もある。この際、情報はたんに客観的なものとして広がるわけではない。「重要だ」「おもしろい」「感動する」「憤りを感じる」など、さまざまな反応がまとわりついていく。

こういったSNSと他のメディアとは、どこが違うのだろうか。次の各メディアと比べ、その特徴を明らかに

してみよう。その上で、SNS、また、その他のメディアとどのようにつきあえばよいか考えてみよう。

- 新聞
- ラジオ
- テレビ
- インターネットのニュース

いま一度、目の前の情報の確からしさを疑ってみて、あなたに求められている情報の目利きをする力(メディア・リテラシー)について考えてみよう。

単元テーマに関連したコラムを、教材と教材の間に配置しています。

確かな情報を伝える

情報と適切につきあう

学習活動

1 次の文章を読んで、情報と適切につきあう方法について話し合おう。

その教材で取り組む学習活動を冒頭に提示することで、ねらいを意識しながら教材に入ることができます。

ひとまず、信じない

押しまもる 押井守

自分が知覚しているこの現実と、本当に自分が生きている現実が同じものであるという保証はどこにもない。ある解剖学者が話していたが、人間の脳自体が、この世界をバーチャルに理解しているのだ、何が現実なのかということは、人間には実証できないのだ。確かに今、僕の目の前にコップがある。どうしても、そこにコップがあると思えない。しかし、そのことも僕の手先に伝わるコップ

▼ 問 「自分が知覚しているこの現実と、保証はどこにもない」とあるが、なぜか。
① バーチャル virtual 仮想の。
知覚 読 覚える・覚める
実証 注 実相

イラストや図版を適宜掲載し、文章の読解を助けます。



映画「GHOST IN THE SHELL／攻殻機動隊」より

にリアルな夢を見ることができたら、もはやそれがその人間にとっての現実となってしまうのではないか、ということだ。それこそ過去のSF^②作品が何度も描いてきた世界ではないか。

の感触と、僕の目に映るコップの色形を感じただけのことで、その視覚と触覚自体がニセモノの情報だったとしても、知覚している僕にはそのことに気づけない。

犬や虫たちは、どうも人間とは違うようにこの世界を認識している。虫たちの複眼には花の色は違って見えている。彼らは僕らが見ているように、世界を認識していないかもしれない。同じものを見ても、違うように見ているのだとしたら、緑で覆われた美しい山並みという景色も、実は現実なのかどうか疑わしくなってくる。その考えをさらに押し進めれば、人間の脳

5

10

15

② SF science fiction 通常の時間と空間の枠組みを超えた出来事を科学的仮想に基づいて描いた物語。空想科学小説。

本当はすべて夢を見ているだけなのかもしれない。そして仮にそうだったとしても、それを確かめることはできないのだ。夢の中の知覚のみが僕らのすべてであるならば、夢の外のリアルに触ることができないからである。つまり、ある意味では僕らの接する情報のすべては、脳が知覚しているだけという点でいうと、初めからフェイクなのだ。

もちろん、僕は今のような話をもってして、インターネットがよくないほうへ進んでいるかもしれないという危機感を茶化すつもりはない。だが、「情報なんてフェイク」くらいのニヒリズム^④でも持っていなければ、フェイクニュースに足をすくわれるということは言いたい。それが今のネットの根本的な問題ではなかったか。

実は、リアルタイム^⑤で真実を追求するというインターネットの構造そのものが、フェイクニュースを生み出す仕組みになっている。今のように世界が衛星回線とインターネットでつながり、地球の裏側で起きたことを瞬時に知ることができるということは、一見、便利なことのような気もする。しかし、そこには大きな落とし穴がある。

5

10

15

適宜、発問を置き、スムーズな読解につなげます。

④ 同 「今のネットの根本的な問題」とは何か。

⑤ リアルタイム real time 即時。同時。

▼ 同 「大きな落とし穴」とは何か。

* 語句 茶化す／足をすくわれる

覆われた読 覆す 追求 注 追及・追究

戦争の映像をリアルタイムで見ることと、戦場で何が起きているかを知るということは、まるで違うことだからだ。特に映像として切り取られたものは、戦争という現実のごく一部にしかすぎない。これは映像だけの話ではない。仮に現地にいる人間がSNSで何かを発信していたとして、それは、その人物が知りえた情報でしかない。

情報発信している人間が、將軍なのか、一兵士なのか、民間人や難民なのか。それによっても情報の信頼度や中身は大きく変わってくる。あるいは、そのSNS情報そのものが、何かの意図をもって流されたニセ情報である可能性も捨てきれない。外界と人間の脳の間で起きえる情報の改竄かいざんと同じようなことが、SNSの情報を受け取る我々と戦場の間で起きている、ということだ。* 荒唐無稽に思えるそんな話が、実は脳の外で起きているかもしれない。考えてみれば、これは怖いことである。

ネットの登場によって、すべての人類が情報を共有することができるようになり、立場を超え、国境を越え、同じ土俵で問題に向き合うことができるようになった。そういう輝かしい時代をインターネットが切り拓ひらいた、などと考えてい

5

10

15

⑥ デマゴギー demagogy
根拠・確証のないうわさ話
デマ。

る人間がいるとしたら、それはかなり控えめに言っても、無自覚にデマゴギー⑥をまき散らす存在である。そんなことが本当に可能な世界が来ると考えていること自体が、大いなるフェイクなのである。

インターネットの出現は、個人が手にできる情報の精度を、それまでよりも格段に落としてしまった。一見、便利で使い勝手がよいネットは、情報から人々を遠ざけてしまった。そのことに早く気づくべきである。

5

▼問「ネットは、情報から人々を遠ざけてしまった」とはどういうことか。

* 語句

改竄／荒唐無稽／格段

土俵 読 米俵

精度 読 精進



押井守 おし まもる

一九五一（昭和二六）年。東京都の生まれ。映画監督、アニメーション演出家・小説家・脚本家・漫画原作者・劇作家・ゲームクリエイター。主な監督作品として「うる星やつら オンリー・ユー」「機動警察パトレイバー the Movie」「GHOST IN THE SHELL／攻殻機動隊」などがある。本文は『ひとまず、信じない』（二〇一七年）から選んだ。

🔍 情報を整理するために

・「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか説明してみよう。

各文章教材に、内容理解の手引きである「情報を整理するために」を設定しています。

確かな情報を伝える

情報を適切に編集する



学習活動

- 1 情報を適切に扱うにはどうすればよいか、「情報はつくられる」「ひとまず、信じない」なども参考にしながら考えよう。
- 2 自分で調べた資料を加えて考えをまとめよう。
- 3 まとめた自分の考えを三分間で発表しよう。

❶ パブリックスピーチをしよう 聞き手を意識したスピーチ

スピーチをする機会は、誰にでも訪れる。せっかく人前で話す機会を得たからには、自分の伝えたいことが伝えたいままに伝わり、なおかつ、相手に影響力のあるスピーチをしたい。

では、大勢の人の前でスピーチをする時、どんなことに注意したらよいだろうか。聞き手の立場に立ったわかりやすい話し方の基本をおさえた上で、三分間のパブリックスピーチに挑戦しよう。

「話す・聞く」「書く」単元の3教材めは、2教材めまでの学習を踏まえた表現活動です。

❶ 原稿づくりのポイント

話す内容の構成は、次のような型を意識してみよう。

はじめ（序論） テーマを伝える／聞き手の共感を得る

なか（本論―引用と考察） 言いたいこと（結論）の根拠・理由・事例を三つほど用意する

おわり（結論） 自分の考えを述べ、全体を締めくくる

こうすることで、聞き手は、話し手がどんな内容をどんな観点から話そうとしているかが把握でき、核心に焦点を合わせやすくなる。なお、一文が長すぎると聞き手が話の流れをつかみにくくなる。短い文を積み重ねていく話し方は、呼吸の間も取れて、話にリズムが生まれる。

❷ 話し手のポイント

原稿がまとまったら、話す前にスピーチ内容を確認し、イメージトレーニングをしてみよう。原稿の棒読みにな

らないように、声の大きさ・速さ・高さ・間などを意識的に変化させてみる。また、相手に伝わるスピーチにするには、聞き手が氣勢であっても、一人一人に向き合っているかのように話す。

例えば、一つの文の句点（。）までを一人に目を合わせて話し、そのあと別の一人に視線を移す。こうして、文章を区切りながら視線を動かすことで、聞き手の注意を引きつけ、信頼を得ることにつながる。

❸ 聞き手のポイント

聞き手は、話し手のほうに体を向け、うなずきながら聞く。相手が話しやすくなるようにしてあげよう。また、スピーチ後の質問では「なぜそのように考えたのですか」「もう少し詳しく話してください」など、相手のスピーチ内容をふまえた議論の展開を目指そう。活発な対話によって、話し手・聞き手、双方の思考を活性化させることができる。

活動の手順を丁寧に、順を追って提示します。

表現テーマ例集

各単元に配置されている「表現テーマ集」では、単元テーマに関連した表現活動の具体を例示します。

メディア・リテラシー

情報の確かさを保証する上で、唯一の正解はない。ゆえに、情報を受け取る側の目の確かさが問われる。メディア・リテラシーを高めるとは、自分の鑑識眼を精緻にするということである。次のようなテーマについて、書いたり、発表したり、話し合ったりしてみよう。

？ フェイクニュースにだまされないためには？

本単元でも扱ってきたように、世界中にフェイクニュースがあふれている。しかし、どれがフェイク（嘘）でどれがファクト（事実）なのかわからないのが実状である。では、どうすればフェイクニュースにだまされないで済むのか、自分にできることを考えよう。

？ メディアの役割とその変化って？

新聞・ラジオ・テレビ・インターネットと、この百年ほどを振り返っても、さまざまなメディアが覇権を争ってきた。そもそもメディアとは、何かと何かを媒介する仲立ちのことである。メディアの歴史を振り返りながら、それぞれの役割の変化をまとめてみよう。

？ スマートフォンをどう活用する？

かつてスーパーコンピューターを使わなければできなかったようなことが、いまや私たちの手のひらに収まった端末で実行できる。では、私たちの体の一部とも言えるものになったその道具を、いったいどのように使うべきなのだろうか、考えてみよう。

🧠 考えるためのプロセス

- 問いについて、まず今の自分の視点から考えてみる。
- 次に違う視点から考えてみる。調べたり、話を聞いたりする必要がある。
- その上で、もう一度考え直してみる。

「学習活動のヒント」は、具体例をもとに、その組み立て・構造などを図やイラストなどを用いながら丁寧に示します。

【発表原稿例】

はじめ

言葉の定義をまとめ、これから述べることの概要を整理する。

● 原まさみです。発表を始めます。

フェイクニュースとは、本物を偽った虚偽のニュースのことを言います。1994年、ルワンダの大虐殺を引き起こしたのは、フツ人主体の政府軍や民兵がラジオ放送に扇動されたからだといわれています。フェイクニュースが社会を混乱に巻きこむ恐ろしさは、インターネットが発達した今の社会も無縁ではありません。

事例①

事例を取りあげ、何が起きているのかを紹介する。

● 2019年、ソーシャルメディアのユーザーらは、共通のハッシュタグを用い、世界最大の熱帯雨林であるアマゾンで森林火災が急増していることに怒りを表明しました。しかし、その時に使用された写真の大半は数十年前に撮影されたものや、さらにはブラジル以外の国で発生した火災を写したものであることが明らかになっています。

事例②

事例を取りあげ、背景にある問題点を指摘する。

● また、SNS上における十年分のツイートを分析した結果、嘘が真実よりも速く広まるだけでなく、私たち人間が嘘を広めている、という研究成果が発表されています。どのカテゴリにおいても、嘘は真実よりも速く、早く、深く、広範囲に広がっていったのです。

引用

問題点に対する識者の意見を紹介する。

● このような問題に対して、映画監督の押井守は「リアルタイムで真実を追求するというインターネットの構造そのものが、フェイクニュースを生み出す仕組みになっている」と警鐘を鳴らしています。なぜなら「自分が知覚しているこの現実と、本当に自分が生きている現実が同じものであるという保証」はどこにもなく、「何が現実なのかということは、人間には実証できない」からです。

考察

引用などをふまえ、導かれる考えをまとめる。

● よくいわれるように、ある情報の事実性に疑いをもち、それを確かめるファクトチェック（事実確認）は確かに役に立ちます。しかし、多くの人が指摘するように、ファクトチェックをネットで見かける全ての情報に対して行うことは、時間的に不可能です。加えて、チェックするのは基本的には疑わしいと思った情報であり、疑いをもたない場合や事実だと思った場合、チェックを行うことはまずありません。

おわり

ここまでの記述をふまえて、自分の考えを述べる。

● フェイクニュースの拡散を防ぐために、私たちは、自分自身が特定の「フィルターバブル」の中にいる可能性を意識し、自分にとってもっともらしい情報にこそ気をつけるべきなのです。以上で発表を終わります。



学習活動のヒント

振り返る

次の点について、まとめたり、発表したりしよう。

- ① 情報との適切なつきあい方について、「ひとまず、信じて」の筆者の考えをまとめよう。
- ② 情報との適切なつきあい方ができているかどうか、自分の考えをまとめたり、発表したりしよう。



単元ごとに「振り返る」を配置。観点別評価にも対応しています。

学びを深める

「情報と身体」を読んで、「本当の情報リテラシー」(57・上4)とは何か、考えてみよう。



語彙

メディア・リテラシー

「フェイクニュース」 マスメディアやソーシャルメディアなどで、事実と異なる情報を報道する、あるいはそのような報道を行うメディアそのものを指す。虚偽であるにもかかわらず、た上で行う架空報道や、推測を事実のように報道するなど、故意のものについては捏造報道とも言う。

「サイバースケード」 インターネット上で、同様の意見・感想をもつ人々だけが集まり、極端に偏った方向に意見が集約され、自分たちと反対側の立場を無視・排除するようになる現象のこと。

「エコーチェンバー」 閉鎖的な空間内でのコミュニケーションを繰り返すことによって、特定の信念が増幅または強化される状況の比喩を指す。もとは、密閉された音楽録音用の残響室のこと。

「フィルターバブル」 インターネットの検索サイトなどの各ユーザーが見たくないような情報を遮断する機能(フィルター)により、「泡」の中に包まれたように、自分が見たい情報しか見えなくなること。

単元テーマに関連する言葉を示し、語彙を広げます。



学びを深める

情報と身体

よしおかひろ吉岡洋

世界が、とても狭くなってしまった。

ここには二つの意味が含まれている。第一に、メディアの発達によって、世界のさまざまな場所で起こっているできごとを、簡単に知ることができるようになった。新聞、写真、電話、映画、テレビ、そしてインターネットのおかげで、空間的距離や時間的遅れはどんどん縮小されてゆき、その結果世界は確かに「狭く」なった。メディアの中では、自爆テロもオリンピックも国会での証人喚問も、あたかも目の前で繰り広げられている一連のショーのようだ。それらは悲しみや怒りや喜びといった強い感情を引き起こすけれど、自分自身¹⁰は日常生活という「観客席」に座ったままなのである。

単元テーマに関連した少し長めの文章を、「学びを深める」として掲載しています。

これは未曾有^{みそごう}の状況である。人間は長い間、自分が住む小さな共同体^{ムラ}の外で何が起きているかを確かめるには、旅に出るほかはなかった。「旅」とは身体がリアルな時間の中を運動することであり、その運動を通して世界を経験することである。これは、生き物として自然なことでもあった。一方メディア環境においては、身体の運動なしに世界についての知識が獲得される。そこでは、より多くの情報を得るためには、より長くモニター^①の前に座っていること、つまりできるだけ身体を動かさないことが必要になる。ここでは知覚と運動とが分離されている。その意味で、生き物として大変無理なことを強いられているわけだ。

さて、そのようにして膨大な情報にさらされているばかりは、これまでよりも世界をオープンに経験しているだろうか？ とてもそうは思えない。インターネットによって誰もが直接「世界」にアクセスできるはずなのに、ほとんどの人が仕事以外にやっているのは、仲間うちでメールを交換し、国内のごく限られたウェブサイトを眺め、掲示板でおしゃべりすることである。情報ネットワークは、それがただ存在するというだけでは、未知の人々どうしの出会いなど生み出さ

脚注や課題は後にまとめ、文章の読みに集中できるようにしています。

ない。むしろ現在のインターネット環境においては、人々は情報を既製品のカタログのようなものとして経験するし、人間どうしの出会いすら、もはや思いがけないできごとではなくなり、一定の手続きに変えられてしまう。

これが、世界が「狭く」なったということの、二番めの意味である。情報ネットワークの中で、人々はますます狭い世界の中に安住するようになってしまったのだ。八〇年代末、オタクということがよく話題にのぼった。現在、多くの人がマニア④という意味でのオタクになったということではないけれども、オタク的な心性は社会にすっかり根をおろしたようにみえる。すなわち人々は、外の世界「について」の言葉やシンボルを操作するのは巧みだが、自分の世界「の中で」それらを意味づけようとはしない。まるで「幽体離脱」のように、知識と身体とを切り離す術を習得してしまったのである。かつては、僅かな情報を手に入れるために、図書館に通ってかたっぱしから資料を調べたり、注文した外国雑誌を何か月も待たなければならなかった。それは確かに、とても不便なことであった。けれどその「不便さ」がある意味では、情報の意味をゆっくり考える猶予を与えてくれていたと

スイッチを切る」習慣かもしれない。メディアという「観客席」からサッと立ち上がってはまた戻ってくる。電子的空間と身体的現実との間の往復運動に、自分なりの軽快なリズムを見いだすこと。そこそこの情報リテラシーだ。⑤ IT革命も行きづまった今こそ、情報通信技術が人間にとってなんの役に立つのかを、産業界や専門家に任せせず、日常生活の「中から」考えていく絶好の機会なのである。

- ① モニター monitor コンピューターの表示装置。ディスプレイともいう。
- ② ウェブサイト website インターネット上で、一冊の本のようにひとまとまりの情報がおかれている場所。
- ③ マニア 特定の分野・物事に対してのめり込んだり、関連品または関連情報の収集を積極的に行ったりする人。
- ④ 幽体離脱 魂が肉体から抜け出るとされる現象。
- ⑤ リテラシー literacy ある分野に関する知識やそれを活用する能力。
- ⑥ IT革命 revolution of information technology 情報通信技術（IT）の革新によって、経済をはじめとする地球規模での社会システムが大きく変化していく動向のこと。産業革命に倣って呼ばれる。



吉岡洋 よしおかひろし

一九五六（昭和三一）年。美学者。著書に『思想』の現在形『情報と生命』などがある。本文は「朝日新聞」（二〇〇二年三月一五日夕刊）によった。

「学びを広げる」の内容理解の手引きとして、「読みナビ」を設定しています。

読みナビ

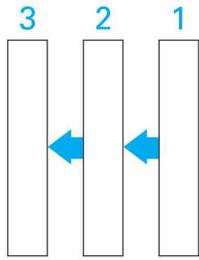
- 「ここには二つの意味が含まれている。」（55・上2）とあるが、「二つの意味」をそれぞれまとめてみよう。
- 「逆説的に聞こえるかもしれないが」（56・下4）とあるが、ここでの「逆説」とはどのようなことか、説明してみよう。
- 「情報に意味を与えるのはこの身体を通してしかありえない」（56・下16）とはどのようなことか。「情報」「身体」「旅」を関連づけて考えてみよう。

もいえる。また、ある種の情報が手に入りにくいことは、それを獲得し自分のものにしよとすると強い動機づけになってもいた。逆説的に聞こえるかもしれないが、そうした「効率の悪さ」が、とても複雑な意味の場を形づくっていたのである。長い時間のかかる作業は人にいろいろなことを考えさせたし、その途中で思いがけないものが見つかったりした。それに対し、探しているものがすぐ見つかる情報空間とは、裏をかえせば「単に探しているものしか見つからない」退屈な場所だともいえる。

こんなふうになっていたからといって、昔を懐かしんでいるわけでは決してない。そうではなく、人間が常に身体を伴った存在であること、情報に意味を与えるのはこの身体を通してしかありえないことを、いま一度思い出そうといっているだけだ。インターネットにどっぷり浸りきるのも、逆にそれを拒絶するのも得策とは思えない。大切なのはむしろ「頻繁に



資料編「思考の方法」は、比較、分類、仮定、抽象化など9項目を、イラストを用いて簡潔にまとめています。



順序を整理したり、並べ替えたりすることによって、内容のまとまりや全体の流れが捉えやすくなり、考えを整理できる。

思考の方法

順序立てる

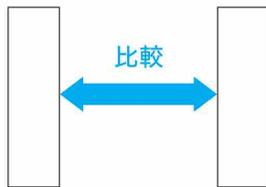
まず……。次に……。最後に……。

第一に……。第二に……。第三に……。

○○の順に並べてみると……。

「思考の方法」一覧

「思考の方法」は、実際に物事を考える場面では、いくつも組み合わせ用いられます。話す・聞く・書く・読む活動の中で、まずは意識することが重要です。意識しながら繰り返し活用して、場面や状況に応じて自由に使いこなせるようにしましょう。



二つ以上のものを互いに比べ合わせることで、同じところや似ているところ、違うところをはっきりさせることができる。

どのような点で比べるかという比較の観点を明らかにしておく、考えがより詳しく確かなものになる。

思考の方法

比較する

○○と□を比べると……。

関連図書を、「表現」「教材」「単元テーマ」それぞれのカテゴリに分けて紹介します。

ブックガイド



●表現にかかわる本

『わかりやすく伝える技術』

池上彰

元アナウンサーの筆者が、豊富な経験をもとに、さまざまなエピソードをまじえながら「わかりやすさの技術」を紹介する。

『ことばだけでは伝わらない』

西江雅之

「見た目」や「伝え方」だけではない「伝え合い」という考え方で総合的に捉えた、コミュニケーション入門。

『他者と働く』

宇田川元一

人と人の「わかりあえなさ」を解決するために、相手との溝に橋を架け、新しい関係性を構築することの重要性を説く。

●教材にかかわる本

『ひとまず、信じない』

押井守

ネットやサイバー攻撃などを扱う映画を世に送り出してきた著者が、手にした情報に対して自らの頭で考えることの大切さを説く。

『うわさとは何か』

松田美佐

ネット社会となった現代も人々を魅了し惑わせる「最古のメディア」であるうわさを通して、情報とのつきあい方を考える。

『未来の地図帳』

河合雅司

二〇四五年の日本人はどこに暮らすのか。「日本の地域別将来推計人口」のデータをもとに予測した、未来のための手引き書。

●単元のテーマにかかわる本

『日本社会のしくみ』

小熊英二

改革が何度も叫ばれながらもなかなか変わらない「日本社会のしくみ」を、雇用慣行に着目することで解明していく。

『社会学史』

大澤真幸

アリストテレスからカントン・メイヤーまで、知の巨人が産み出した思想を網羅的にたどり、社会学の歴史を一望する。

『ミライの授業』

瀧本哲史

全国の中学校を訪れて開講した特別講義「未来をつくる5つの法則」のエッセンスを凝縮。「なぜ学ぶのか」の疑問に答える一冊。

「報道」「記録」「宣伝・広告」など実用的な文章の特徴・読み方について、実例を挙げながら解説しています。

- ① 発信年月日：報告書には、必ず発信した年月日を書く。この年月日によって報告書に書かれた情報の新鮮さがわかる。
- ② 提出先：報告書の提出先、宛名を左寄せで書く。
- ③ 報告者所属・氏名：報告書の発信者の所属と氏名を、右寄せで書く。
- ④ タイトル：報告書の概要が端的にわかるような簡潔なタイトルをつける。
- ⑤ 本文：「標題の件……」以下は、報告書の定型句である。
- ⑥ 結び：最後に「以上」をつけ、終わりであることを示す。

〈報告書の例〉

① 20XX年5月10日

② 佐藤弘子営業第1課長

③ 営業第1課 木村登

④ ベトナム出張の報告

⑤ 標題の件につき、下記のとおり報告いたします。

記

出張期間 20XX年4月5日～15日

出張先 ベトナム社会主義共和国 ハノイ市・ホーチミン市

活動内容 新しい現地生産拠点の候補地として5カ所の工業団地を視察した。

報告事項 立地条件や利用条件などを勘案した結果、ロンドウック工業団地が最も優れていると判断した。詳細は別添の「各工業団地に関するレポート」を参照のこと。

添付資料 ベトナムの5カ所の工業団地の比較資料

⑥ 以上

実用的な文章の特徴
実務的な文章

日常生活で目にする文章の中には、具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれたものもあります。ここで取りあげたような文章は、決まった形式や構成にのっとることで、読み手が速やかに内容を理解できるようになっています。

1 報告書

報告書とは、関係者に必要な情報を提供するための文書のことである。タイトル↓概要↓詳細という三階層の論理構造で、情報を整理して伝える。具体的には、日時（出張期間）、場所（出張先）、内容（活動内容）等について、情報を簡潔に記述する。

論理的な文章の特徴
評論文の読み方

私たちの身のまわりの論理的な文章には、説明文、論説文、評論文、解説文、意見文、批評文などがあります。ここでは、これら論理的な文章の代表例として評論文（以下、「評論」）を取りあげて、その読み方を解説します。

評論文など論理的な文章の読み方を、注意すべき言葉などを挙げながら解説しています。

評論とはどういう文章か
ここでは、評論を「筆者が、自分の言いたいことを論理的に述べて、読者を納得させようとする文章」と定義する。この定義における「言いたいこと」とは、「考え」「意見」「主張」「評価」「批評」と言い換えることができる。また「論理的に述べるとは、「筋道立てて述べる」と言い換えることができる。

評論の構成を捉えて読む

評論の筆者は、自分の言いたいことを読者に伝えるために、どのような構成で文章を書けばよいかに注力している。したがって、読む時には、文章の構成を捉えることが重要になる。評論の構成は「序論」「本論」「結論」という三段の構成が基本である。ほとんどの評論は、「結論」が文章の最後に位置する尾括型である。ただし、「結論」が文章の最初にある頭括型の構成で書かれた評論もあるので、「結論は最後にある」と決めて読んでほしい。

言いたいことと具体例とを読み分ける

評論の筆者は、自分の言いたいことを、具体例やデータを示しながら述べていく。なぜなら、筆者の言いたいことだけが具体例やデータなしに一方的に列挙されても、読者は納得しないし、説得もされないからである。

したがって、読者は評論のどの部分が筆者の言いたいことで、どの部分はその説得力を高めるための具体例やデータなのかを意識しながら読めばよい。筆者の言いたいことをきちんと捉えたと後に、その説得力を支えている具体例やデータの妥当性、信頼性を吟味すればよい。

評論の筆者が説得力を高めるために用いる具体例やデータの根拠には、自分自身の体験や見聞、マスメディアやインターネットから得た情報、文献や書籍からの引用などがある。また、科学系の評論などの場合は、実験・観察・統計などのデータが、筆者の言いたいことの説得力を増すために重要な役割を果たしていることが多い。

言語活動のための用語集

「話す・聞く／話し合うこと」
に関連して

【話し合う】

話し合いとは、他人と意見を共有し、自分一人ではたどり着けない答えを模索するための方法だ。特別な道具がなくてもできるので、いつでもどこでも始められる。

読書会 共通の文章を読んだ時には、読書会でそれぞれの感想や疑問を共有してみよう。同じものを読んだはずなのに、全く違う感想や疑問が出てくるのが、読書会のおもしろいところだ。まずは自分の感じたことを、しっかりと相手に伝えよう。

ディスカッション あることについての感想や疑問が共有できたら、いくつかテーマを決めて、自分や他の人がなぜそのような感想や疑問をもったのか、ディスカッション（討議や討論）を通して探ってみよう。

ワールド・カフェ 話し合いをする時には、場の雰囲気も大事だ。ときにはお茶やお菓子

を用意しておき、リラックスして話せる場を作ってみよう。時間を区切ってメンバーを入れ替えながら、少人数での対話を繰り返すのがワールド・カフェの特徴だ。少人数の対話でありながらも、全体で話し合ったかのような感覚が味わえる。

【発表する】

話し合いの内容をまとめたら、発表して、さらに多くの人と成果や課題を共有しよう。その積み重ねから新たなものが生まれていく。

ポスターセッション 模造紙などにアイデアを整理し、掲示するのが発表の第一歩だ。興味をもった人が集まってきたら、その場で内容を説明することで、ポスターセッションのようになる。

プレゼンテーション 主に提案型の発表をプレゼンテーション（プレゼン）という。視覚に訴えるために、ICT機器を活用することも多い。事前に、プレゼンを行う場所の環境を確認するとともに、目的に応じた準備を心がけよう。

パネルディスカッション 設定したテーマについて異なる立場の意見を述べ合い、質疑などを通してそれぞれの立場に対する理解やテーマに対する議論を深めていくのがパ

ネルディスカッションである。

シンポジウム 参加者だけでは深みにくいテーマの場合は、専門家などを招いて講演や報告などの話題提供を行ってもらい、その後議論するシンポジウムも効果的だ。

ブックトーク 本の魅力を紹介するならば、テーマを決めて複数の本を取り上げるブックトークにも挑戦してみよう。同じテーマの本を並べてそれぞれの本の特色を比べてみたり、書評大会のようにゲーム的な仕組みを設けたりしてもおもしろい。

「書くこと」に関連して

【記述する】

文章は書き手の自己表現として、さまざまな書き方がなされるが、書かれた目的によって書き方が異なる場合も多い。

紹介文 対象とするものに興味をもってもらえるように、特徴などを端的にわかりやすく伝えようとして書かれることが多い。

解説文 対象とするものの特徴や意義について、より掘り下げて書かれることが多い。

批評文 対象のよい点だけでなく、悪い点なども指摘するなど、より広い観点から書か

随時参照しながら活動を行えるよう、「言語活動のための用語集」を巻末に配置しています。

『新現代の国語』指導書・教材

指導書

【指導資料＋指導用各種データ】

●指導資料

教材研究や、授業を進めるにあたって役立つ資料、言語活動の手順、評価に活用できる情報などを豊富に掲載。

●指導用各種データ

【主なデータの内容】

- ・評価問題
- ・実力問題
- ・教科書原文テキスト／紙面PDF
- ・発問例集
- ・各種ワークシート（構成・内容理解等）
- ・学習課題ノート
- ・提示用デジタルコンテンツ
- ・指導資料PDF版
- ・ことまな辞書（P・C・タブレット端末で使える辞書アプリ）

※ Google フォームで使えるデータも「用意します」。

※ 各種データは、指導書購入校がアクセスできることまな学校サポートサイトからダウンロードできます。



ことまなは、三省堂が提供する教育ICTサービスのプラットフォームです。

指導書・教材・デジタル

●教師用教科書

教科書の紙面に、文章構造や要約、課題の解答例など、授業の準備／実施に役立つ情報を色字で刷りこんだものです。

生徒用教材

●学習課題ノート

教科書準拠のワークブック。別冊解答あり。

学習者用デジタル教科書

●「一人一台端末」時代に対応したデジタル教科書

- ・教科書と同一内容を収録。
- ・紙面／本文の拡大縮小、書き込み機能などを搭載。
- ・Windows、iPad、Chromebook（ブラウザ）に対応。

※ウェブ上で、デジタル教科書を体験できます。

三省堂

令和4年度版高校教科書

デジタル教科書・教材のご案内



(<https://tb.sanseido-publ.co.jp/digitaltext-hspr/>)